

Q0001

リスク管理・ISMS

タグ：情報資産台帳

用語：情報資産台帳の確認ポイント1：情報資産の名称、所有者、重要度、保管場所などを一覧化した記録

次の説明に最も合う用語はどれか。情報資産の名称、所有者、重要度、保管場所などを一覧化した記録

- A. リスク特定
- B. リスク評価
- C. リスク保有
- D. 情報資産台帳

答え・解説

Q0001 正答：D. 情報資産台帳

解説：情報資産台帳は、情報資産の名称、所有者、重要度、保管場所などを一覧化した記録。ほかの選択肢は目的又は適用場面が異なる。

Q0002

リスク管理・ISMS

タグ：情報資産台帳

用語：情報資産台帳の確認ポイント2：情報資産の名称、所有者、重要度、保管場所などを一覧化した記録

情報資産台帳の説明として最も適切なものはどれか。

- A. 情報資産の名称、所有者、重要度、保管場所などを一覧化した記録
- B. リスク源、事象、原因、影響などを洗い出すリスクアセスメントの工程
- C. 分析結果をリスク基準と比較し、対応の優先順位を決める工程
- D. 評価したリスクを受容し、追加対策を行わず保持する対応

答え・解説

Q0002 正答：A. 情報資産の名称、所有者、重要度、保管場所などを一覧化した記録

解説：情報資産台帳の要点は「情報資産の名称、所有者、重要度、保管場所などを一覧化した記録」である。名称が似た概念でも、対象とする処理や目的を区別する。

Q0003

リスク管理・ISMS

タグ：情報資産台帳

用語：情報資産台帳の確認ポイント3：情報資産の名称、所有者、重要度、保管場所などを一覧化した記録

用語と説明の組合せとして適切なものはどれか。論点は「情報資産台帳」である。

- A. リスク特定：情報資産の名称、所有者、重要度、保管場所などを一覧化した記録
- B. 情報資産台帳：情報資産の名称、所有者、重要度、保管場所などを一覧化した記録
- C. リスク評価：情報資産の名称、所有者、重要度、保管場所などを一覧化した記録
- D. リスク保有：情報資産の名称、所有者、重要度、保管場所などを一覧化した記録

答え・解説

Q0003 正答：B. 情報資産台帳：情報資産の名称、所有者、重要度、保管場所などを一覧化した記録

解説：正しい組合せは「情報資産台帳：情報資産の名称、所有者、重要度、保管場所などを一覧化した記録」。用語だけでなく、何を守り、何を処理する概念かを確認する。

Q0004

リスク管理・ISMS

タグ：情報資産台帳

用語：情報資産台帳の確認ポイント4：情報資産の名称、所有者、重要度、保管場所などを一覧化した記録

「情報資産台帳」は、情報資産の名称、所有者、重要度、保管場所などを一覧化した記録。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0004 正答：○

解説：正しい。情報資産台帳は情報資産の名称、所有者、重要度、保管場所などを一覧化した記録。実務では対象、目的、前提条件を併せて確認する。

Q0005

リスク管理・ISMS

タグ：情報資産台帳

用語：情報資産台帳の確認ポイント5：情報資産の名称、所有者、重要度、保管場所などを一覧化した記録

組織が「情報資産の名称、所有者、重要度、保管場所などを一覧化した記録」ために採用すべき概念又は仕組みはどれか。

- A. リスク特定
- B. リスク評価
- C. リスク保有
- D. 情報資産台帳

答え・解説

Q0005 正答：D. 情報資産台帳

解説：この目的に対応するのは情報資産台帳である。情報資産の名称、所有者、重要度、保管場所などを一覧化した記録という機能・考え方を持つためである。

Q0006

リスク管理・ISMS

タグ：情報資産台帳

用語：情報資産台帳の確認ポイント6：情報資産の名称、所有者、重要度、保管場所などを一覧化した記録

「情報資産台帳」について、誤解を避けるための説明として最も適切なものはどれか。

- A. 情報資産の名称、所有者、重要度、保管場所などを一覧化した記録
- B. 評価したリスクを受容し、追加対策を行わず保持する対応
- C. 分析結果をリスク基準と比較し、対応の優先順位を決める工程
- D. リスク源、事象、原因、影響などを洗い出すリスクアセスメントの工程

答え・解説

Q0006 正答：A. 情報資産の名称、所有者、重要度、保管場所などを一覧化した記録

解説：情報資産台帳は情報資産の名称、所有者、重要度、保管場所などを一覧化した記録。似た用語との違いは、対象、時点、責任又は処理方法にある。

Q0007

リスク管理・ISMS

タグ：情報資産台帳

用語：情報資産台帳の確認ポイント7：情報資産の名称、所有者、重要度、保管場所などを一覧化した記録

「情報資産台帳」は、リスク源、事象、原因、影響などを洗い出すリスクアセスメントの工程。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0007 正答：×

解説：誤り。記述はリスク特定の説明である。情報資産台帳は情報資産の名称、所有者、重要度、保管場所などを一覧化した記録。

Q0008

リスク管理・ISMS

タグ：情報資産台帳

用語：情報資産台帳の確認ポイント8：情報資産の名称、所有者、重要度、保管場所などを一覧化した記録

次の状況で中心となる論点はどれか。「情報資産の名称、所有者、重要度、保管場所などを一覧化した記録」ことが求められている。

- A. リスク評価
- B. リスク保有
- C. 情報資産台帳
- D. リスク特定

答え・解説

Q0008 正答：C. 情報資産台帳

解説：中心となる論点は情報資産台帳である。判断では、説明中の目的語と処理の方向を手掛かりにする。

Q0009

リスク管理・ISMS

タグ：情報資産台帳

用語：情報資産台帳の確認ポイント9：情報資産の名称、所有者、重要度、保管場所などを一覧化した記録

情報資産台帳は名称だけで判断できるため、対象や目的を確認する必要はない。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0009 正答：×

解説：誤り。情報資産台帳は情報資産の名称、所有者、重要度、保管場所などを一覧化した記録という概念であり、対象・目的・前提条件の確認が必要である。

Q0010

リスク管理・ISMS

タグ：情報資産台帳

用語：情報資産台帳の確認ポイント10：情報資産の名称、所有者、重要度、保管場所などを一覧化した記録

情報資産台帳と他の類似概念を区別する際は、「情報資産の名称、所有者、重要度、保管場所などを一覧化した記録」という定義を基準にするとよい。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0010 正答：○

解説：正しい。情報資産台帳の定義は情報資産の名称、所有者、重要度、保管場所などを一覧化した記録であり、類似概念との区別に使える。

Q0011

リスク管理・ISMS

タグ：リスク特定

用語：リスク特定の確認ポイント1：リスク源、事象、原因、影響などを洗い出すリスクアセスメントの工程

次の説明に最も合う用語はどれか。リスク源、事象、原因、影響などを洗い出すリスクアセスメントの工程

- A. リスク特定
- B. リスク分析
- C. リスク回避
- D. 残留リスク

答え・解説

Q0011 正答：A. リスク特定

解説：リスク特定は、リスク源、事象、原因、影響などを洗い出すリスクアセスメントの工程。ほかの選択肢は目的又は適用場面が異なる。

Q0012

リスク管理・ISMS

タグ：リスク特定

用語：リスク特定の確認ポイント2：リスク源、事象、原因、影響などを洗い出すリスクアセスメントの工程

リスク特定の説明として最も適切なものはどれか。

- A. 発生可能性と影響度などを用いてリスクの大きさを見積もる工程
- B. リスク源、事象、原因、影響などを洗い出すリスクアセスメントの工程
- C. リスクの原因となる活動を中止又は変更してリスクをなくす対応
- D. 管理策を実施した後にも残るリスク

答え・解説

Q0012 正答：B. リスク源、事象、原因、影響などを洗い出すリスクアセスメントの工程

解説：リスク特定の要点は「リスク源、事象、原因、影響などを洗い出すリスクアセスメントの工程」である。名称が似た概念でも、対象とする処理や目的を区別する。

Q0013

リスク管理・ISMS

タグ：リスク特定

用語：リスク特定の確認ポイント3：リスク源、事象、原因、影響などを洗い出すリスクアセスメントの工程

用語と説明の組合せとして適切なものはどれか。論点は「リスク特定」である。

- A. リスク分析：リスク源、事象、原因、影響などを洗い出すリスクアセスメントの工程
- B. リスク回避：リスク源、事象、原因、影響などを洗い出すリスクアセスメントの工程
- C. リスク特定：リスク源、事象、原因、影響などを洗い出すリスクアセスメントの工程
- D. 残留リスク：リスク源、事象、原因、影響などを洗い出すリスクアセスメントの工程

答え・解説

Q0013 正答：C. リスク特定：リスク源、事象、原因、影響などを洗い出すリスクアセスメントの工程

解説：正しい組合せは「リスク特定：リスク源、事象、原因、影響などを洗い出すリスクアセスメントの工程」。用語だけでなく、何を守り、何进行处理する概念かを確認する。

Q0014

リスク管理・ISMS

タグ：リスク特定

用語：リスク特定の確認ポイント4：リスク源、事象、原因、影響などを洗い出すリスクアセスメントの工程

「リスク特定」は、リスク源、事象、原因、影響などを洗い出すリスクアセスメントの工程。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0014 正答：○

解説：正しい。リスク特定はリスク源、事象、原因、影響などを洗い出すリスクアセスメントの工程。実務では対象、目的、前提条件を併せて確認する。

Q0015

リスク管理・ISMS

タグ：リスク特定

用語：リスク特定の確認ポイント5：リスク源、事象、原因、影響などを洗い出すリスクアセスメントの工程

組織が「リスク源、事象、原因、影響などを洗い出すリスクアセスメントの工程」ために採用すべき概念又は仕組みはどれか。

- A. リスク特定
- B. リスク分析
- C. リスク回避
- D. 残留リスク

答え・解説

Q0015 正答：A. リスク特定

解説：この目的に対応するのはリスク特定である。リスク源、事象、原因、影響などを洗い出すリスクアセスメントの工程という機能・考え方を持つためである。

Q0016

リスク管理・ISMS

タグ：リスク特定

用語：リスク特定の確認ポイント6：リスク源、事象、原因、影響などを洗い出すリスクアセスメントの工程

「リスク特定」について、誤解を避けるための説明として最も適切なものはどれか。

- A. 管理策を実施した後にも残るリスク
- B. リスク源、事象、原因、影響などを洗い出すリスクアセスメントの工程
- C. リスクの原因となる活動を中止又は変更してリスクをなくす対応
- D. 発生可能性と影響度などを用いてリスクの大きさを見積もる工程

答え・解説

Q0016 正答：B. リスク源、事象、原因、影響などを洗い出すリスクアセスメントの工程

解説：リスク特定はリスク源、事象、原因、影響などを洗い出すリスクアセスメントの工程。似た用語との違いは、対象、時点、責任又は処理方法にある。

Q0017

リスク管理・ISMS

タグ：リスク特定

用語：リスク特定の確認ポイント7：リスク源、事象、原因、影響などを洗い出すリスクアセスメントの工程

「リスク特定」は、発生可能性と影響度などを用いてリスクの大きさを見積もる工程。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0017 正答：×

解説：誤り。記述はリスク分析の説明である。リスク特定はリスク源、事象、原因、影響などを洗い出すリスクアセスメントの工程。

Q0018

リスク管理・ISMS

タグ：リスク特定

用語：リスク特定の確認ポイント8：リスク源、事象、原因、影響などを洗い出すリスクアセスメントの工程

次の状況で中心となる論点はどれか。「リスク源、事象、原因、影響などを洗い出すリスクアセスメントの工程」ことが求められている。

- A. リスク回避
- B. 残留リスク
- C. リスク分析
- D. リスク特定

答え・解説

Q0018 正答：D. リスク特定

解説：中心となる論点はリスク特定である。判断では、説明中の目的語と処理の方向を手掛かりにする。

Q0019

リスク管理・ISMS

タグ：リスク特定

用語：リスク特定の確認ポイント9：リスク源、事象、原因、影響などを洗い出すリスクアセスメントの工程

リスク特定を選定するときは、「リスク源、事象、原因、影響などを洗い出すリスクアセスメントの工程」という本来の目的に合うかを確認する。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0019 正答：○

解説：正しい。リスク特定の選定・運用では、リスク源、事象、原因、影響などを洗い出すリスクアセスメントの工程という目的との適合を確認する。

Q0020

リスク管理・ISMS

タグ：リスク特定

用語：リスク特定の確認ポイント10：リスク源、事象、原因、影響などを洗い出すリスクアセスメントの工程

リスク特定は、リスク源、事象、原因、影響などを洗い出すリスクアセスメントの工程という説明とは無関係である。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0020 正答：×

解説：誤り。リスク特定はまさにリスク源、事象、原因、影響などを洗い出すリスクアセスメントの工程という意味を持つ。

Q0021

リスク管理・ISMS

タグ：リスク分析

用語：リスク分析の確認ポイント1：発生可能性と影響度などを用いてリスクの大きさを見積もる工程

次の説明に最も合う用語はどれか。発生可能性と影響度などを用いてリスクの大きさを見積もる工程

- A. リスク評価
- B. リスク分析
- C. リスク低減
- D. ISMS

答え・解説

Q0021 正答：B. リスク分析

解説：リスク分析は、発生可能性と影響度などを用いてリスクの大きさを見積もる工程。ほかの選択肢は目的又は適用場面が異なる。

Q0022

リスク管理・ISMS

タグ：リスク分析

用語：リスク分析の確認ポイント2：発生可能性と影響度などを用いてリスクの大きさを見積もる工程

リスク分析の説明として最も適切なものはどれか。

- A. 分析結果をリスク基準と比較し、対応の優先順位を決める工程
- B. 管理策によって発生可能性又は影響度を下げる対応
- C. 発生可能性と影響度などを用いてリスクの大きさを見積もる工程
- D. 情報セキュリティを組織的かつ継続的に管理・改善するマネジメントシステム

答え・解説

Q0022 正答：C. 発生可能性と影響度などを用いてリスクの大きさを見積もる工程

解説：リスク分析の要点は「発生可能性と影響度などを用いてリスクの大きさを見積もる工程」である。名称が似た概念でも、対象とする処理や目的を区別する。

Q0023

リスク管理・ISMS

タグ：リスク分析

用語：リスク分析の確認ポイント3：発生可能性と影響度などを用いてリスクの大きさを見積もる工程

用語と説明の組合せとして適切なものはどれか。論点は「リスク分析」である。

- A. リスク評価：発生可能性と影響度などを用いてリスクの大きさを見積もる工程
- B. リスク低減：発生可能性と影響度などを用いてリスクの大きさを見積もる工程
- C. ISMS：発生可能性と影響度などを用いてリスクの大きさを見積もる工程
- D. リスク分析：発生可能性と影響度などを用いてリスクの大きさを見積もる工程

答え・解説

Q0023 正答：D. リスク分析：発生可能性と影響度などを用いてリスクの大きさを見積もる工程

解説：正しい組合せは「リスク分析：発生可能性と影響度などを用いてリスクの大きさを見積もる工程」。用語だけでなく、何を守り、何を処理する概念かを確認する。

Q0024

リスク管理・ISMS

タグ：リスク分析

用語：リスク分析の確認ポイント4：発生可能性と影響度などを用いてリスクの大きさを見積もる工程

「リスク分析」は、発生可能性と影響度などを用いてリスクの大きさを見積もる工程。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0024 正答：○

解説：正しい。リスク分析は発生可能性と影響度などを用いてリスクの大きさを見積もる工程。実務では対象、目的、前提条件を併せて確認する。

Q0025

リスク管理・ISMS

タグ：リスク分析

用語：リスク分析の確認ポイント5：発生可能性と影響度などを用いてリスクの大きさを見積もる工程

組織が「発生可能性と影響度などを用いてリスクの大きさを見積もる工程」ために採用すべき概念又は仕組みはどれか。

- A. リスク評価
- B. リスク分析
- C. リスク低減
- D. ISMS

答え・解説

Q0025 正答：B. リスク分析

解説：この目的に対応するのはリスク分析である。発生可能性と影響度などを用いてリスクの大きさを見積もる工程という機能・考え方を持つためである。

Q0026

リスク管理・ISMS

タグ：リスク分析

用語：リスク分析の確認ポイント6：発生可能性と影響度などを用いてリスクの大きさを見積もる工程

「リスク分析」について、誤解を避けるための説明として最も適切なものはどれか。

- A. 情報セキュリティを組織的かつ継続的に管理・改善するマネジメントシステム
- B. 管理策によって発生可能性又は影響度を下げる対応
- C. 発生可能性と影響度などを用いてリスクの大きさを見積もる工程
- D. 分析結果をリスク基準と比較し、対応の優先順位を決める工程

答え・解説

Q0026 正答：C. 発生可能性と影響度などを用いてリスクの大きさを見積もる工程

解説：リスク分析は発生可能性と影響度などを用いてリスクの大きさを見積もる工程。似た用語との違いは、対象、時点、責任又は処理方法にある。

Q0027

リスク管理・ISMS

タグ：リスク分析

用語：リスク分析の確認ポイント7：発生可能性と影響度などを用いてリスクの大きさを見積もる工程

「リスク分析」は、分析結果をリスク基準と比較し、対応の優先順位を決める工程。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0027 正答：×

解説：誤り。記述はリスク評価の説明である。リスク分析は発生可能性と影響度などを用いてリスクの大きさを見積もる工程。

Q0028

リスク管理・ISMS

タグ：リスク分析

用語：リスク分析の確認ポイント8：発生可能性と影響度などを用いてリスクの大きさを見積もる工程

次の状況で中心となる論点はどれか。「発生可能性と影響度などを用いてリスクの大きさを見積もる工程」ことが求められている。

- A. リスク分析
- B. リスク低減
- C. ISMS
- D. リスク評価

答え・解説

Q0028 正答：A. リスク分析

解説：中心となる論点はリスク分析である。判断では、説明中の目的語と処理の方向を手掛かりにする。

Q0029

リスク管理・ISMS

タグ：リスク分析

用語：リスク分析の確認ポイント9：発生可能性と影響度などを用いてリスクの大きさを見積もる工程

リスク分析は名称だけで判断できるため、対象や目的を確認する必要はない。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0029 正答：×

解説：誤り。リスク分析は発生可能性と影響度などを用いてリスクの大きさを見積もる工程という概念であり、対象・目的・前提条件の確認が必要である。

Q0030

リスク管理・ISMS

タグ：リスク分析

用語：リスク分析の確認ポイント10：発生可能性と影響度などを用いてリスクの大きさを見積もる工程

リスク分析と他の類似概念を区別する際は、「発生可能性と影響度などを用いてリスクの大きさを見積もる工程」という定義を基準にするとよい。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0030 正答：○

解説：正しい。リスク分析の定義は発生可能性と影響度などを用いてリスクの大きさを見積もる工程であり、類似概念との区別に使える。

Q0031

リスク管理・ISMS

タグ：リスク評価

用語：リスク評価の確認ポイント1：分析結果をリスク基準と比較し、対応の優先順位を決める工程

次の説明に最も合う用語はどれか。分析結果をリスク基準と比較し、対応の優先順位を決める工程

- A. リスク回避
- B. リスク共有
- C. リスク評価
- D. 情報資産台帳

答え・解説

Q0031 正答：C. リスク評価

解説：リスク評価は、分析結果をリスク基準と比較し、対応の優先順位を決める工程。ほかの選択肢は目的又は適用場面が異なる。

Q0032

リスク管理・ISMS

タグ：リスク評価

用語：リスク評価の確認ポイント2：分析結果をリスク基準と比較し、対応の優先順位を決める工程

リスク評価の説明として最も適切なものはどれか。

- A. リスクの原因となる活動を中止又は変更してリスクをなくす対応
- B. 保険や契約などを通じてリスクの一部を他者と分担する対応
- C. 情報資産の名称、所有者、重要度、保管場所などを一覧化した記録
- D. 分析結果をリスク基準と比較し、対応の優先順位を決める工程

答え・解説

Q0032 正答：D. 分析結果をリスク基準と比較し、対応の優先順位を決める工程

解説：リスク評価の要点は「分析結果をリスク基準と比較し、対応の優先順位を決める工程」である。名称が似た概念でも、対象とする処理や目的を区別する。

Q0033

リスク管理・ISMS

タグ：リスク評価

用語：リスク評価の確認ポイント3：分析結果をリスク基準と比較し、対応の優先順位を決める工程

用語と説明の組合せとして適切なものはどれか。論点は「リスク評価」である。

- A. リスク評価：分析結果をリスク基準と比較し、対応の優先順位を決める工程
- B. リスク回避：分析結果をリスク基準と比較し、対応の優先順位を決める工程
- C. リスク共有：分析結果をリスク基準と比較し、対応の優先順位を決める工程
- D. 情報資産台帳：分析結果をリスク基準と比較し、対応の優先順位を決める工程

答え・解説

Q0033 正答：A. リスク評価：分析結果をリスク基準と比較し、対応の優先順位を決める工程

解説：正しい組合せは「リスク評価：分析結果をリスク基準と比較し、対応の優先順位を決める工程」。用語だけでなく、何を守り、何を処理する概念かを確認する。

Q0034

リスク管理・ISMS

タグ：リスク評価

用語：リスク評価の確認ポイント4：分析結果をリスク基準と比較し、対応の優先順位を決める工程

「リスク評価」は、分析結果をリスク基準と比較し、対応の優先順位を決める工程。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0034 正答：○

解説：正しい。リスク評価は分析結果をリスク基準と比較し、対応の優先順位を決める工程。実務では対象、目的、前提条件を併せて確認する。

Q0035

リスク管理・ISMS

タグ：リスク評価

用語：リスク評価の確認ポイント5：分析結果をリスク基準と比較し、対応の優先順位を決める工程

組織が「分析結果をリスク基準と比較し、対応の優先順位を決める工程」ために採用すべき概念又は仕組みはどれか。

- A. リスク回避
- B. リスク共有
- C. リスク評価
- D. 情報資産台帳

答え・解説

Q0035 正答：C. リスク評価

解説：この目的に対応するのはリスク評価である。分析結果をリスク基準と比較し、対応の優先順位を決める工程という機能・考え方を持つためである。

Q0036

リスク管理・ISMS

タグ：リスク評価

用語：リスク評価の確認ポイント6：分析結果をリスク基準と比較し、対応の優先順位を決める工程

「リスク評価」について、誤解を避けるための説明として最も適切なものはどれか。

- A. 情報資産の名称、所有者、重要度、保管場所などを一覧化した記録
- B. 保険や契約などを通じてリスクの一部を他者と分担する対応
- C. リスクの原因となる活動を中止又は変更してリスクをなくす対応
- D. 分析結果をリスク基準と比較し、対応の優先順位を決める工程

答え・解説

Q0036 正答：D. 分析結果をリスク基準と比較し、対応の優先順位を決める工程

解説：リスク評価は分析結果をリスク基準と比較し、対応の優先順位を決める工程。似た用語との違いは、対象、時点、責任又は処理方法にある。

Q0037

リスク管理・ISMS

タグ：リスク評価

用語：リスク評価の確認ポイント7：分析結果をリスク基準と比較し、対応の優先順位を決める工程

「リスク評価」は、リスクの原因となる活動を中止又は変更してリスクをなくす対応。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0037 正答：×

解説：誤り。記述はリスク回避の説明である。リスク評価は分析結果をリスク基準と比較し、対応の優先順位を決める工程。

Q0038

リスク管理・ISMS

タグ：リスク評価

用語：リスク評価の確認ポイント8：分析結果をリスク基準と比較し、対応の優先順位を決める工程

次の状況で中心となる論点はどれか。「分析結果をリスク基準と比較し、対応の優先順位を決める工程」ことが求められている。

- A. リスク共有
- B. リスク評価
- C. 情報資産台帳
- D. リスク回避

答え・解説

Q0038 正答：B. リスク評価

解説：中心となる論点はリスク評価である。判断では、説明中の目的語と処理の方向を手掛かりにする。

Q0039

リスク管理・ISMS

タグ：リスク評価

用語：リスク評価の確認ポイント9：分析結果をリスク基準と比較し、対応の優先順位を決める工程

リスク評価を選定するときは、「分析結果をリスク基準と比較し、対応の優先順位を決める工程」という本来の目的に合うかを確認する。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0039 正答：○

解説：正しい。リスク評価の選定・運用では、分析結果をリスク基準と比較し、対応の優先順位を決める工程という目的との適合を確認する。

Q0040

リスク管理・ISMS

タグ：リスク評価

用語：リスク評価の確認ポイント10：分析結果をリスク基準と比較し、対応の優先順位を決める工程

リスク評価は、分析結果をリスク基準と比較し、対応の優先順位を決める工程という説明とは無関係である。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0040 正答：×

解説：誤り。リスク評価はまさに分析結果をリスク基準と比較し、対応の優先順位を決める工程という意味を持つ。

Q0041

リスク管理・ISMS

タグ：リスク回避

用語：リスク回避の確認ポイント1：リスクの原因となる活動を中止又は変更してリスクをなくす対応

次の説明に最も合う用語はどれか。リスクの原因となる活動を中止又は変更してリスクをなくす対応

- A. リスク低減
- B. リスク保有
- C. リスク特定
- D. リスク回避

答え・解説

Q0041 正答：D. リスク回避

解説：リスク回避は、リスクの原因となる活動を中止又は変更してリスクをなくす対応。ほかの選択肢は目的又は適用場面が異なる。

Q0042

リスク管理・ISMS

タグ：リスク回避

用語：リスク回避の確認ポイント2：リスクの原因となる活動を中止又は変更してリスクをなくす対応

リスク回避の説明として最も適切なものはどれか。

- A. リスクの原因となる活動を中止又は変更してリスクをなくす対応
- B. 管理策によって発生可能性又は影響度を下げる対応
- C. 評価したリスクを受容し、追加対策を行わず保持する対応
- D. リスク源、事象、原因、影響などを洗い出すリスクアセスメントの工程

答え・解説

Q0042 正答：A. リスクの原因となる活動を中止又は変更してリスクをなくす対応

解説：リスク回避の要点は「リスクの原因となる活動を中止又は変更してリスクをなくす対応」である。名称が似た概念でも、対象とする処理や目的を区別する。

Q0043

リスク管理・ISMS

タグ：リスク回避

用語：リスク回避の確認ポイント3：リスクの原因となる活動を中止又は変更してリスクをなくす対応

用語と説明の組合せとして適切なものはどれか。論点は「リスク回避」である。

- A. リスク低減：リスクの原因となる活動を中止又は変更してリスクをなくす対応
- B. リスク回避：リスクの原因となる活動を中止又は変更してリスクをなくす対応
- C. リスク保有：リスクの原因となる活動を中止又は変更してリスクをなくす対応
- D. リスク特定：リスクの原因となる活動を中止又は変更してリスクをなくす対応

答え・解説

Q0043 正答：B. リスク回避：リスクの原因となる活動を中止又は変更してリスクをなくす対応

解説：正しい組合せは「リスク回避：リスクの原因となる活動を中止又は変更してリスクをなくす対応」。用語だけでなく、何を守り、何を処理する概念かを確認する。

Q0044

リスク管理・ISMS

タグ：リスク回避

用語：リスク回避の確認ポイント4：リスクの原因となる活動を中止又は変更してリスクをなくす対応

「リスク回避」は、リスクの原因となる活動を中止又は変更してリスクをなくす対応。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0044 正答：○

解説：正しい。リスク回避はリスクの原因となる活動を中止又は変更してリスクをなくす対応。実務では対象、目的、前提条件を併せて確認する。

Q0045

リスク管理・ISMS

タグ：リスク回避

用語：リスク回避の確認ポイント5：リスクの原因となる活動を中止又は変更してリスクをなくす対応

組織が「リスクの原因となる活動を中止又は変更してリスクをなくす対応」ために採用すべき概念又は仕組みはどれか。

- A. リスク低減
- B. リスク保有
- C. リスク特定
- D. リスク回避

答え・解説

Q0045 正答：D. リスク回避

解説：この目的に対応するのはリスク回避である。リスクの原因となる活動を中止又は変更してリスクをなくす対応という機能・考え方を持つためである。

Q0046

リスク管理・ISMS

タグ：リスク回避

用語：リスク回避の確認ポイント6：リスクの原因となる活動を中止又は変更してリスクをなくす対応

「リスク回避」について、誤解を避けるための説明として最も適切なものはどれか。

- A. リスクの原因となる活動を中止又は変更してリスクをなくす対応
- B. リスク源、事象、原因、影響などを洗い出すリスクアセスメントの工程
- C. 評価したリスクを受容し、追加対策を行わず保持する対応
- D. 管理策によって発生可能性又は影響度を下げる対応

答え・解説

Q0046 正答：A. リスクの原因となる活動を中止又は変更してリスクをなくす対応

解説：リスク回避はリスクの原因となる活動を中止又は変更してリスクをなくす対応。似た用語との違いは、対象、時点、責任又は処理方法にある。

Q0047

リスク管理・ISMS

タグ：リスク回避

用語：リスク回避の確認ポイント7：リスクの原因となる活動を中止又は変更してリスクをなくす対応

「リスク回避」は、管理策によって発生可能性又は影響度を下げる対応。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0047 正答：×

解説：誤り。記述はリスク低減の説明である。リスク回避はリスクの原因となる活動を中止又は変更してリスクをなくす対応。

Q0048

リスク管理・ISMS

タグ：リスク回避

用語：リスク回避の確認ポイント8：リスクの原因となる活動を中止又は変更してリスクをなくす対応

次の状況で中心となる論点はどれか。「リスクの原因となる活動を中止又は変更してリスクをなくす対応」ことが求められている。

- A. リスク保有
- B. リスク特定
- C. リスク回避
- D. リスク低減

答え・解説

Q0048 正答：C. リスク回避

解説：中心となる論点はリスク回避である。判断では、説明中の目的語と処理の方向を手掛かりにする。

Q0049

リスク管理・ISMS

タグ：リスク回避

用語：リスク回避の確認ポイント9：リスクの原因となる活動を中止又は変更してリスクをなくす対応

リスク回避は名称だけで判断できるため、対象や目的を確認する必要はない。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0049 正答：×

解説：誤り。リスク回避はリスクの原因となる活動を中止又は変更してリスクをなくす対応という概念であり、対象・目的・前提条件の確認が必要である。

Q0050

リスク管理・ISMS

タグ：リスク回避

用語：リスク回避の確認ポイント10：リスクの原因となる活動を中止又は変更してリスクをなくす対応

リスク回避と他の類似概念を区別する際は、「リスクの原因となる活動を中止又は変更してリスクをなくす対応」という定義を基準にするとよい。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0050 正答：○

解説：正しい。リスク回避の定義はリスクの原因となる活動を中止又は変更してリスクをなくす対応であり、類似概念との区別に使える。

Q0051

リスク管理・ISMS

タグ：リスク低減

用語：リスク低減の確認ポイント1：管理策によって発生可能性又は影響度を下げる対応

次の説明に最も合う用語はどれか。管理策によって発生可能性又は影響度を下げる対応

- A. リスク低減
- B. リスク共有
- C. 残留リスク
- D. リスク分析

答え・解説

Q0051 正答：A. リスク低減

解説：リスク低減は、管理策によって発生可能性又は影響度を下げる対応。ほかの選択肢は目的又は適用場面が異なる。

Q0052

リスク管理・ISMS

タグ：リスク低減

用語：リスク低減の確認ポイント2：管理策によって発生可能性又は影響度を下げる対応

リスク低減の説明として最も適切なものはどれか。

- A. 保険や契約などを通じてリスクの一部を他者と分担する対応
- B. 管理策によって発生可能性又は影響度を下げる対応
- C. 管理策を実施した後にも残るリスク
- D. 発生可能性と影響度などを用いてリスクの大きさを見積もる工程

答え・解説

Q0052 正答：B. 管理策によって発生可能性又は影響度を下げる対応

解説：リスク低減の要点は「管理策によって発生可能性又は影響度を下げる対応」である。名称が似た概念でも、対象とする処理や目的を区別する。

Q0053

リスク管理・ISMS

タグ：リスク低減

用語：リスク低減の確認ポイント3：管理策によって発生可能性又は影響度を下げる対応

用語と説明の組合せとして適切なものはどれか。論点は「リスク低減」である。

- A. リスク共有：管理策によって発生可能性又は影響度を下げる対応
- B. 残留リスク：管理策によって発生可能性又は影響度を下げる対応
- C. リスク低減：管理策によって発生可能性又は影響度を下げる対応
- D. リスク分析：管理策によって発生可能性又は影響度を下げる対応

答え・解説

Q0053 正答：C. リスク低減：管理策によって発生可能性又は影響度を下げる対応

解説：正しい組合せは「リスク低減：管理策によって発生可能性又は影響度を下げる対応」。用語だけでなく、何を守り、何を処理する概念かを確認する。

Q0054

リスク管理・ISMS

タグ：リスク低減

用語：リスク低減の確認ポイント4：管理策によって発生可能性又は影響度を下げる対応

「リスク低減」は、管理策によって発生可能性又は影響度を下げる対応。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0054 正答：○

解説：正しい。リスク低減は管理策によって発生可能性又は影響度を下げる対応。実務では対象、目的、前提条件を併せて確認する。

Q0055

リスク管理・ISMS

タグ：リスク低減

用語：リスク低減の確認ポイント5：管理策によって発生可能性又は影響度を下げる対応

組織が「管理策によって発生可能性又は影響度を下げる対応」ために採用すべき概念又は仕組みはどれか。

- A. リスク低減
- B. リスク共有
- C. 残留リスク
- D. リスク分析

答え・解説

Q0055 正答：A. リスク低減

解説：この目的に対応するのはリスク低減である。管理策によって発生可能性又は影響度を下げる対応という機能・考え方を持つためである。

Q0056

リスク管理・ISMS

タグ：リスク低減

用語：リスク低減の確認ポイント6：管理策によって発生可能性又は影響度を下げる対応

「リスク低減」について、誤解を避けるための説明として最も適切なものはどれか。

- A. 発生可能性と影響度などを用いてリスクの大きさを見積もる工程
- B. 管理策によって発生可能性又は影響度を下げる対応
- C. 管理策を実施した後にも残るリスク
- D. 保険や契約などを通じてリスクの一部を他者と分担する対応

答え・解説

Q0056 正答：B. 管理策によって発生可能性又は影響度を下げる対応

解説：リスク低減は管理策によって発生可能性又は影響度を下げる対応。似た用語との違いは、対象、時点、責任又は処理方法にある。

Q0057

リスク管理・ISMS

タグ：リスク低減

用語：リスク低減の確認ポイント7：管理策によって発生可能性又は影響度を下げる対応

「リスク低減」は、保険や契約などを通じてリスクの一部を他者と分担する対応

。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0057 正答：×

解説：誤り。記述はリスク共有の説明である。リスク低減は管理策によって発生可能性又は影響度を下げる対応。

Q0058

リスク管理・ISMS

タグ：リスク低減

用語：リスク低減の確認ポイント8：管理策によって発生可能性又は影響度を下げる対応

次の状況で中心となる論点はどれか。「管理策によって発生可能性又は影響度を下げる対応」ことが求められている。

A. 残留リスク

B. リスク分析

C. リスク共有

D. リスク低減

答え・解説

Q0058 正答：D. リスク低減

解説：中心となる論点はリスク低減である。判断では、説明中の目的語と処理の方向を手掛かりにする。

Q0059

リスク管理・ISMS

タグ：リスク低減

用語：リスク低減の確認ポイント9：管理策によって発生可能性又は影響度を下げる対応

リスク低減を選定するときは、「管理策によって発生可能性又は影響度を下げる対応」という本来の目的に合うかを確認する。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0059 正答：○

解説：正しい。リスク低減の選定・運用では、管理策によって発生可能性又は影響度を下げる対応という目的との適合を確認する。

Q0060

リスク管理・ISMS

タグ：リスク低減

用語：リスク低減の確認ポイント10：管理策によって発生可能性又は影響度を下げる対応

リスク低減は、管理策によって発生可能性又は影響度を下げる対応という説明とは無関係である。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0060 正答：×

解説：誤り。リスク低減はまさに管理策によって発生可能性又は影響度を下げる対応という意味を持つ。

Q0061

リスク管理・ISMS

タグ：リスク共有

用語：リスク共有の確認ポイント1：保険や契約などを通じてリスクの一部を他者と分担する対応

次の説明に最も合う用語はどれか。保険や契約などを通じてリスクの一部を他者と分担する対応

- A. リスク保有
- B. リスク共有
- C. ISMS
- D. リスク評価

答え・解説

Q0061 正答：B. リスク共有

解説：リスク共有は、保険や契約などを通じてリスクの一部を他者と分担する対応。ほかの選択肢は目的又は適用場面が異なる。

Q0062

リスク管理・ISMS

タグ：リスク共有

用語：リスク共有の確認ポイント2：保険や契約などを通じてリスクの一部を他者と分担する対応

リスク共有の説明として最も適切なものはどれか。

- A. 評価したリスクを受容し、追加対策を行わず保持する対応
- B. 情報セキュリティを組織的かつ継続的に管理・改善するマネジメントシステム
- C. 保険や契約などを通じてリスクの一部を他者と分担する対応
- D. 分析結果をリスク基準と比較し、対応の優先順位を決める工程

答え・解説

Q0062 正答：C. 保険や契約などを通じてリスクの一部を他者と分担する対応

解説：リスク共有の要点は「保険や契約などを通じてリスクの一部を他者と分担する対応」である。名称が似た概念でも、対象とする処理や目的を区別する。

Q0063

リスク管理・ISMS

タグ：リスク共有

用語：リスク共有の確認ポイント3：保険や契約などを通じてリスクの一部を他者と分担する対応

用語と説明の組合せとして適切なものはどれか。論点は「リスク共有」である。

- A. リスク保有：保険や契約などを通じてリスクの一部を他者と分担する対応
- B. ISMS：保険や契約などを通じてリスクの一部を他者と分担する対応
- C. リスク評価：保険や契約などを通じてリスクの一部を他者と分担する対応
- D. リスク共有：保険や契約などを通じてリスクの一部を他者と分担する対応

答え・解説

Q0063 正答：D. リスク共有：保険や契約などを通じてリスクの一部を他者と分担する対応

解説：正しい組合せは「リスク共有：保険や契約などを通じてリスクの一部を他者と分担する対応」。用語だけでなく、何を守り、何を処理する概念かを確認する。

Q0064

リスク管理・ISMS

タグ：リスク共有

用語：リスク共有の確認ポイント4：保険や契約などを通じてリスクの一部を他者と分担する対応

「リスク共有」は、保険や契約などを通じてリスクの一部を他者と分担する対応

。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0064 正答：○

解説：正しい。リスク共有は保険や契約などを通じてリスクの一部を他者と分担する対応。実務では対象、目的、前提条件を併せて確認する。

Q0065

リスク管理・ISMS

タグ：リスク共有

用語：リスク共有の確認ポイント5：保険や契約などを通じてリスクの一部を他者と分担する対応

組織が「保険や契約などを通じてリスクの一部を他者と分担する対応」ために採用すべき概念又は仕組みはどれか。

- A. リスク保有
- B. リスク共有
- C. ISMS
- D. リスク評価

答え・解説

Q0065 正答：B. リスク共有

解説：この目的に対応するのはリスク共有である。保険や契約などを通じてリスクの一部を他者と分担する対応という機能・考え方を持つためである。

Q0066

リスク管理・ISMS

タグ：リスク共有

用語：リスク共有の確認ポイント6：保険や契約などを通じてリスクの一部を他者と分担する対応

「リスク共有」について、誤解を避けるための説明として最も適切なものはどれか。

- A. 分析結果をリスク基準と比較し、対応の優先順位を決める工程
- B. 情報セキュリティを組織的かつ継続的に管理・改善するマネジメントシステム
- C. 保険や契約などを通じてリスクの一部を他者と分担する対応
- D. 評価したリスクを受容し、追加対策を行わず保持する対応

答え・解説

Q0066 正答：C. 保険や契約などを通じてリスクの一部を他者と分担する対応

解説：リスク共有は保険や契約などを通じてリスクの一部を他者と分担する対応。似た用語との違いは、対象、時点、責任又は処理方法にある。

Q0067

リスク管理・ISMS

タグ：リスク共有

用語：リスク共有の確認ポイント7：保険や契約などを通じてリスクの一部を他者と分担する対応

「リスク共有」は、評価したリスクを受容し、追加対策を行わず保持する対応。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0067 正答：×

解説：誤り。記述はリスク保有の説明である。リスク共有は保険や契約などを通じてリスクの一部を他者と分担する対応。

Q0068

リスク管理・ISMS

タグ：リスク共有

用語：リスク共有の確認ポイント8：保険や契約などを通じてリスクの一部を他者と分担する対応

次の状況で中心となる論点はどれか。「保険や契約などを通じてリスクの一部を他者と分担する対応」ことが求められている。

A. リスク共有

B. ISMS

C. リスク評価

D. リスク保有

答え・解説

Q0068 正答：A. リスク共有

解説：中心となる論点はリスク共有である。判断では、説明中の目的語と処理の方向を手掛かりにする。

Q0069

リスク管理・ISMS

タグ：リスク共有

用語：リスク共有の確認ポイント9：保険や契約などを通じてリスクの一部を他者と分担する対応

リスク共有は名称だけで判断できるため、対象や目的を確認する必要はない。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0069 正答：×

解説：誤り。リスク共有は保険や契約などを通じてリスクの一部を他者と分担する対応という概念であり、対象・目的・前提条件の確認が必要である。

Q0070

リスク管理・ISMS

タグ：リスク共有

用語：リスク共有の確認ポイント10：保険や契約などを通じてリスクの一部を他者と分担する対応

リスク共有と他の類似概念を区別する際は、「保険や契約などを通じてリスクの一部を他者と分担する対応」という定義を基準にするとよい。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0070 正答：○

解説：正しい。リスク共有の定義は保険や契約などを通じてリスクの一部を他者と分担する対応であり、類似概念との区別に使える。

Q0071

リスク管理・ISMS

タグ：リスク保有

用語：リスク保有の確認ポイント1：評価したリスクを受容し、追加対策を行わず保持する対応

次の説明に最も合う用語はどれか。評価したリスクを受容し、追加対策を行わず保持する対応

- A. 残留リスク
- B. 情報資産台帳
- C. リスク保有
- D. リスク回避

答え・解説

Q0071 正答：C. リスク保有

解説：リスク保有は、評価したリスクを受容し、追加対策を行わず保持する対応。ほかの選択肢は目的又は適用場面が異なる。

Q0072

リスク管理・ISMS

タグ：リスク保有

用語：リスク保有の確認ポイント2：評価したリスクを受容し、追加対策を行わず保持する対応

リスク保有の説明として最も適切なものはどれか。

- A. 管理策を実施した後にも残るリスク
- B. 情報資産の名称、所有者、重要度、保管場所などを一覧化した記録
- C. リスクの原因となる活動を中止又は変更してリスクをなくす対応
- D. 評価したリスクを受容し、追加対策を行わず保持する対応

答え・解説

Q0072 正答：D. 評価したリスクを受容し、追加対策を行わず保持する対応

解説：リスク保有の要点は「評価したリスクを受容し、追加対策を行わず保持する対応」である。名称が似た概念でも、対象とする処理や目的を区別する。

Q0073

リスク管理・ISMS

タグ：リスク保有

用語：リスク保有の確認ポイント3：評価したリスクを受容し、追加対策を行わず保持する対応

用語と説明の組合せとして適切なものはどれか。論点は「リスク保有」である。

- A. リスク保有：評価したリスクを受容し、追加対策を行わず保持する対応
- B. 残留リスク：評価したリスクを受容し、追加対策を行わず保持する対応
- C. 情報資産台帳：評価したリスクを受容し、追加対策を行わず保持する対応
- D. リスク回避：評価したリスクを受容し、追加対策を行わず保持する対応

答え・解説

Q0073 正答：A. リスク保有：評価したリスクを受容し、追加対策を行わず保持する対応

解説：正しい組合せは「リスク保有：評価したリスクを受容し、追加対策を行わず保持する対応」。用語だけでなく、何を守り、何を処理する概念かを確認する。

Q0074

リスク管理・ISMS

タグ：リスク保有

用語：リスク保有の確認ポイント4：評価したリスクを受容し、追加対策を行わず保持する対応

「リスク保有」は、評価したリスクを受容し、追加対策を行わず保持する対応。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0074 正答：○

解説：正しい。リスク保有は評価したリスクを受容し、追加対策を行わず保持する対応。実務では対象、目的、前提条件を併せて確認する。

Q0075

リスク管理・ISMS

タグ：リスク保有

用語：リスク保有の確認ポイント5：評価したリスクを受容し、追加対策を行わず保持する対応

組織が「評価したリスクを受容し、追加対策を行わず保持する対応」ために採用すべき概念又は仕組みはどれか。

- A. 残留リスク
- B. 情報資産台帳
- C. リスク保有
- D. リスク回避

答え・解説

Q0075 正答：C. リスク保有

解説：この目的に対応するのはリスク保有である。評価したリスクを受容し、追加対策を行わず保持する対応という機能・考え方を持つためである。

Q0076

リスク管理・ISMS

タグ：リスク保有

用語：リスク保有の確認ポイント6：評価したリスクを受容し、追加対策を行わず保持する対応

「リスク保有」について、誤解を避けるための説明として最も適切なものはどれか。

- A. リスクの原因となる活動を中止又は変更してリスクをなくす対応
- B. 情報資産の名称、所有者、重要度、保管場所などを一覧化した記録
- C. 管理策を実施した後にも残るリスク
- D. 評価したリスクを受容し、追加対策を行わず保持する対応

答え・解説

Q0076 正答：D. 評価したリスクを受容し、追加対策を行わず保持する対応

解説：リスク保有は評価したリスクを受容し、追加対策を行わず保持する対応。似た用語との違いは、対象、時点、責任又は処理方法にある。

Q0077

リスク管理・ISMS

タグ：リスク保有

用語：リスク保有の確認ポイント7：評価したリスクを受容し、追加対策を行わず保持する対応

「リスク保有」は、管理策を実施した後にも残るリスク。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0077 正答：×

解説：誤り。記述は残留リスクの説明である。リスク保有は評価したリスクを受容し、追加対策を行わず保持する対応。

Q0078

リスク管理・ISMS

タグ：リスク保有

用語：リスク保有の確認ポイント8：評価したリスクを受容し、追加対策を行わず保持する対応

次の状況で中心となる論点はどれか。「評価したリスクを受容し、追加対策を行わず保持する対応」ことが求められている。

A. 情報資産台帳

B. リスク保有

C. リスク回避

D. 残留リスク

答え・解説

Q0078 正答：B. リスク保有

解説：中心となる論点はリスク保有である。判断では、説明中の目的語と処理の方向を手掛かりにする。

Q0079

リスク管理・ISMS

タグ：リスク保有

用語：リスク保有の確認ポイント9：評価したリスクを受容し、追加対策を行わず保持する対応

リスク保有を選定するときは、「評価したリスクを受容し、追加対策を行わず保持する対応」という本来の目的に合うかを確認する。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0079 正答：○

解説：正しい。リスク保有の選定・運用では、評価したリスクを受容し、追加対策を行わず保持する対応という目的との適合を確認する。

Q0080

リスク管理・ISMS

タグ：リスク保有

用語：リスク保有の確認ポイント10：評価したリスクを受容し、追加対策を行わず保持する対応

リスク保有は、評価したリスクを受容し、追加対策を行わず保持する対応という説明とは無関係である。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0080 正答：×

解説：誤り。リスク保有はまさに評価したリスクを受容し、追加対策を行わず保持する対応という意味を持つ。

Q0081

リスク管理・ISMS

タグ：残留リスク

用語：残留リスクの確認ポイント1：管理策を実施した後にも残るリスク

次の説明に最も合う用語はどれか。管理策を実施した後にも残るリスク

- A. ISMS
- B. リスク特定
- C. リスク低減
- D. 残留リスク

答え・解説

Q0081 正答：D. 残留リスク

解説：残留リスクは、管理策を実施した後にも残るリスク。ほかの選択肢は目的又は適用場面が異なる。

Q0082

リスク管理・ISMS

タグ：残留リスク

用語：残留リスクの確認ポイント2：管理策を実施した後にも残るリスク

残留リスクの説明として最も適切なものはどれか。

- A. 管理策を実施した後にも残るリスク
- B. 情報セキュリティを組織的かつ継続的に管理・改善するマネジメントシステム
- C. リスク源、事象、原因、影響などを洗い出すリスクアセスメントの工程
- D. 管理策によって発生可能性又は影響度を下げる対応

答え・解説

Q0082 正答：A. 管理策を実施した後にも残るリスク

解説：残留リスクの要点は「管理策を実施した後にも残るリスク」である。名称が似た概念でも、対象とする処理や目的を区別する。

Q0083

リスク管理・ISMS

タグ：残留リスク

用語：残留リスクの確認ポイント3：管理策を実施した後にも残るリスク

用語と説明の組合せとして適切なものはどれか。論点は「残留リスク」である。

- A. ISMS：管理策を実施した後にも残るリスク
- B. 残留リスク：管理策を実施した後にも残るリスク
- C. リスク特定：管理策を実施した後にも残るリスク
- D. リスク低減：管理策を実施した後にも残るリスク

答え・解説

Q0083 正答：B. 残留リスク：管理策を実施した後にも残るリスク

解説：正しい組合せは「残留リスク：管理策を実施した後にも残るリスク」。用語だけでなく、何を守り、何を処理する概念かを確認する。

Q0084

リスク管理・ISMS

タグ：残留リスク

用語：残留リスクの確認ポイント4：管理策を実施した後にも残るリスク

「残留リスク」は、管理策を実施した後にも残るリスク。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0084 正答：○

解説：正しい。残留リスクは管理策を実施した後にも残るリスク。実務では対象、目的、前提条件を併せて確認する。

Q0085

リスク管理・ISMS

タグ：残留リスク

用語：残留リスクの確認ポイント5：管理策を実施した後にも残るリスク

組織が「管理策を実施した後にも残るリスク」ために採用すべき概念又は仕組みはどれか。

- A. ISMS
- B. リスク特定
- C. リスク低減
- D. 残留リスク

答え・解説

Q0085 正答：D. 残留リスク

解説：この目的に対応するのは残留リスクである。管理策を実施した後にも残るリスクという機能・考え方を持つためである。

Q0086

リスク管理・ISMS

タグ：残留リスク

用語：残留リスクの確認ポイント6：管理策を実施した後にも残るリスク

「残留リスク」について、誤解を避けるための説明として最も適切なものはどれか。

- A. 管理策を実施した後にも残るリスク
- B. 管理策によって発生可能性又は影響度を下げる対応
- C. リスク源、事象、原因、影響などを洗い出すリスクアセスメントの工程
- D. 情報セキュリティを組織的かつ継続的に管理・改善するマネジメントシステム

答え・解説

Q0086 正答：A. 管理策を実施した後にも残るリスク

解説：残留リスクは管理策を実施した後にも残るリスク。似た用語との違いは、対象、時点、責任又は処理方法にある。

Q0087

リスク管理・ISMS

タグ：残留リスク

用語：残留リスクの確認ポイント7：管理策を実施した後にも残るリスク

「残留リスク」は、情報セキュリティを組織的かつ継続的に管理・改善するマネジメントシステム。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0087 正答：×

解説：誤り。記述はISMSの説明である。残留リスクは管理策を実施した後にも残るリスク。

Q0088

リスク管理・ISMS

タグ：残留リスク

用語：残留リスクの確認ポイント8：管理策を実施した後にも残るリスク

次の状況で中心となる論点はどれか。「管理策を実施した後にも残るリスク」ことが求められている。

- A. リスク特定
- B. リスク低減
- C. 残留リスク
- D. ISMS

答え・解説

Q0088 正答：C. 残留リスク

解説：中心となる論点は残留リスクである。判断では、説明中の目的語と処理の方向を手掛かりにする。

Q0089

リスク管理・ISMS

タグ：残留リスク

用語：残留リスクの確認ポイント9：管理策を実施した後にも残るリスク

残留リスクは名称だけで判断できるため、対象や目的を確認する必要はない。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0089 正答：×

解説：誤り。残留リスクは管理策を実施した後にも残るリスクという概念であり、対象・目的・前提条件の確認が必要である。

Q0090

リスク管理・ISMS

タグ：残留リスク

用語：残留リスクの確認ポイント10：管理策を実施した後にも残るリスク

残留リスクと他の類似概念を区別する際は、「管理策を実施した後にも残るリスク」という定義を基準にするとよい。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0090 正答：○

解説：正しい。残留リスクの定義は管理策を実施した後にも残るリスクであり、類似概念との区別に使える。

Q0091

リスク管理・ISMS

タグ：ISMS

用語：ISMSの確認ポイント1：情報セキュリティを組織的かつ継続的に管理・改善するマネジメントシステム
次の説明に最も合う用語はどれか。情報セキュリティを組織的かつ継続的に管理・改善するマネジメントシステム

- A. ISMS
- B. 情報資産台帳
- C. リスク分析
- D. リスク共有

答え・解説

Q0091 正答：A. ISMS

解説：ISMSは、情報セキュリティを組織的かつ継続的に管理・改善するマネジメントシステム。ほかの選択肢は目的又は適用場面が異なる。

Q0092

リスク管理・ISMS

タグ：ISMS

用語：ISMSの確認ポイント2：情報セキュリティを組織的かつ継続的に管理・改善するマネジメントシステム
ISMSの説明として最も適切なものはどれか。

- A. 情報資産の名称、所有者、重要度、保管場所などを一覧化した記録
- B. 情報セキュリティを組織的かつ継続的に管理・改善するマネジメントシステム
- C. 発生可能性と影響度などを用いてリスクの大きさを見積もる工程
- D. 保険や契約などを通じてリスクの一部を他者と分担する対応

答え・解説

Q0092 正答：B. 情報セキュリティを組織的かつ継続的に管理・改善するマネジメントシステム

解説：ISMSの要点は「情報セキュリティを組織的かつ継続的に管理・改善するマネジメントシステム」である。名称が似た概念でも、対象とする処理や目的を区別する。

Q0093

リスク管理・ISMS

タグ：ISMS

用語：ISMSの確認ポイント3：情報セキュリティを組織的かつ継続的に管理・改善するマネジメントシステム

用語と説明の組合せとして適切なものはどれか。論点は「ISMS」である。

- A. 情報資産台帳：情報セキュリティを組織的かつ継続的に管理・改善するマネジメントシステム
- B. リスク分析：情報セキュリティを組織的かつ継続的に管理・改善するマネジメントシステム
- C. ISMS：情報セキュリティを組織的かつ継続的に管理・改善するマネジメントシステム
- D. リスク共有：情報セキュリティを組織的かつ継続的に管理・改善するマネジメントシステム

答え・解説

Q0093 正答：C. ISMS：情報セキュリティを組織的かつ継続的に管理・改善するマネジメントシステム

解説：正しい組合せは「ISMS：情報セキュリティを組織的かつ継続的に管理・改善するマネジメントシステム」。用語だけでなく、何を守り、何を処理する概念かを確認する。

Q0094

リスク管理・ISMS

タグ：ISMS

用語：ISMSの確認ポイント4：情報セキュリティを組織的かつ継続的に管理・改善するマネジメントシステム

「ISMS」は、情報セキュリティを組織的かつ継続的に管理・改善するマネジメントシステム。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0094 正答：○

解説：正しい。ISMSは情報セキュリティを組織的かつ継続的に管理・改善するマネジメントシステム。実務では対象、目的、前提条件を併せて確認する。

Q0095

リスク管理・ISMS

タグ：ISMS

用語：ISMSの確認ポイント5：情報セキュリティを組織的かつ継続的に管理・改善するマネジメントシステム

組織が「情報セキュリティを組織的かつ継続的に管理・改善するマネジメントシステム」ために採用すべき概念又は仕組みはどれか。

- A. ISMS
- B. 情報資産台帳
- C. リスク分析
- D. リスク共有

答え・解説

Q0095 正答：A. ISMS

解説：この目的に対応するのはISMSである。情報セキュリティを組織的かつ継続的に管理・改善するマネジメントシステムという機能・考え方を持つためである。

Q0096

リスク管理・ISMS

タグ：ISMS

用語：ISMSの確認ポイント6：情報セキュリティを組織的かつ継続的に管理・改善するマネジメントシステム

「ISMS」について、誤解を避けるための説明として最も適切なものはどれか。

- A. 保険や契約などを通じてリスクの一部を他者と分担する対応
- B. 情報セキュリティを組織的かつ継続的に管理・改善するマネジメントシステム
- C. 発生可能性と影響度などを用いてリスクの大きさを見積もる工程
- D. 情報資産の名称、所有者、重要度、保管場所などを一覧化した記録

答え・解説

Q0096 正答：B. 情報セキュリティを組織的かつ継続的に管理・改善するマネジメントシステム

解説：ISMSは情報セキュリティを組織的かつ継続的に管理・改善するマネジメントシステム。似た用語との違いは、対象、時点、責任又は処理方法にある。

Q0097

リスク管理・ISMS

タグ：ISMS

用語：ISMSの確認ポイント7：情報セキュリティを組織的かつ継続的に管理・改善するマネジメントシステム

「ISMS」は、情報資産の名称、所有者、重要度、保管場所などを一覧化した記録。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0097 正答：×

解説：誤り。記述は情報資産台帳の説明である。ISMSは情報セキュリティを組織的かつ継続的に管理・改善するマネジメントシステム。

Q0098

リスク管理・ISMS

タグ：ISMS

用語：ISMSの確認ポイント8：情報セキュリティを組織的かつ継続的に管理・改善するマネジメントシステム

次の状況で中心となる論点はどれか。「情報セキュリティを組織的かつ継続的に管理・改善するマネジメントシステム」ことが求められている。

- A. リスク分析
- B. リスク共有
- C. 情報資産台帳
- D. ISMS

答え・解説

Q0098 正答：D. ISMS

解説：中心となる論点はISMSである。判断では、説明中の目的語と処理の方向を手掛かりにする。

Q0099

リスク管理・ISMS

タグ：ISMS

用語：ISMSの確認ポイント9：情報セキュリティを組織的かつ継続的に管理・改善するマネジメントシステム

ISMSを選定するときは、「情報セキュリティを組織的かつ継続的に管理・改善するマネジメントシステム」という本来の目的に合うかを確認する。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0099 正答：○

解説：正しい。ISMSの選定・運用では、情報セキュリティを組織的かつ継続的に管理・改善するマネジメントシステムという目的との適合を確認する。

Q0100

リスク管理・ISMS

タグ：ISMS

用語：ISMSの確認ポイント10：情報セキュリティを組織的かつ継続的に管理・改善するマネジメントシステム

ISMSは、情報セキュリティを組織的かつ継続的に管理・改善するマネジメントシステムという説明とは無関係である。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0100 正答：×

解説：誤り。ISMSはまさに情報セキュリティを組織的かつ継続的に管理・改善するマネジメントシステムという意味を持つ。